# そのだ南

尼崎市立園田南小学校
学校便り　第 2 号
令和２年５月８日

ＨＰアドレス　www.ama-net.ed.jp/school/E45/index.html

## 今だから必要なこと

校長　佐藤　喜代子

学校再開が延期され、入学したばかりの一年生も含めて、新しいクラス、教室、先生などなど、雰囲気に慣れることもできずに家庭での生活が余儀なくされています。日々の心配事は尽きず、見渡す限り不安な情報ばかりが入ってきます。早く日常が戻るよう、子ども達の元気な姿や声が学校にあふれるよう願い、いろいろなことを考えて準備する毎日です。そのためにも予防対策は大変ですが、みんなで頑張っていきましょう。

この新型ウイルスの世界的大流行をアメリカの大学が 2 年前に警告を促す報告書を出していたと聞いて驚きました。パンデミック（感染症の世界的な大流行）を引き起こす恐れのある病原体を評価し、今後発生する可能性も含めて備えに役立てること、経験にとらわれることなく対策をとることなど感染症に向き合う基本姿勢が記されていたといいます。その際も今回のウイルスのように呼吸器に感染するタイプが大流行する可能性があるとして、優先して監視することや産官民が連携して治療薬やワクチンの開発をめざすことなどを提唱しています。さまざまな技術が発展しても、ウイルスは短時間で大量に複製され、変異も起こりやすいため対策がとりにくく、幅広いウイルスに効く薬がないことの原因も大きいそうです。この経験を経て今後、国際的にウイルスを監視する仕組みを構築する必要性が叫ばれています。　【 参照：読売新聞 R2.4.15 】

人の動きが止まってしまうと、経済が滞り、大きなバランスを崩す生活が強いられています。病気感染で苦しむのはもちろんのこと、当たり前のことが当たり前でなくなる、できていたことができなくなっている生活は、心と体の不調を訴え、生活の基盤である収入や時間の確保をも脅かしています。

感染症の拡大と共に、注目されているのがテレワークです。テレワークとは、「tele＝ 離れた所」と「work＝ 働く」をあわせた造語で、ICT を活用した、場所や時間にとらわれない柔軟な働き方のことで、リモートワーク（チーム体制で遠くで働く）もその一部です。自粛生活という消極的な受け止め方ではなく、これからの生活によりプラスになるよう考え、働き方改革につながると捉えることが大事です。労働力確保、通勤などの移動時間・ストレスの削減、生活の質・生産力の向上、渋滞緩和や環境汚染防止にも役立つといったメリット、自宅の環境整備の問題や長時間労働になりがちといったデメリットを理解した上で環境を整え、これからの仕事のあり方として上手く取り入れ、可能な限り浸透すべきものではないでしょうか。

いつもさまざまな情報、社会情勢やニュースをわかりやすく解説してくれる池上 彰さんが、『何のために学ぶのか』～これからを生きるあなたたちへ～という本を書かれています。なんのために勉強するのかという根本的な問いに対する自身の考えを池上さんらしく、わかりやすく表現されています。時間がある今だからこそ、言い聞かせて欲しい内容です。

日々の社会の動きを理解し、自分の行動を決める上で、学校で習った知識は役に立つ。と同時に、学校で習ったことの意味を今になって十分に理解することができる。中学校の教科書を開いてみるとこれだけのことを習得していれば、大変な知識人だと痛感します。それほど中学校の教科書はよくできている。勉強しておいてよかった。そう思える瞬間です。

学べば学ぶほど今までわからなかったことがわかるようになり、それによって自分の視野が広がります。知らないことや新しいことに出会うとかえって好奇心が刺激され、もっと多くのことが学びたくなります。学ぶことに知的スリルを覚えるようになる。好奇心が満たされれば大きな喜びに浸ることができます。こういう学びの楽しさを小さい頃、学生の頃から体験することができたらどんなにすてきでしょうか。社会に出てからでも学ぶ楽しさを知っておけば、その後は一生学び続けることができるのですから。

また、一流の人ほど基礎的な知識を大事にしている。学ぶことに遅いということは絶対にない。社会にどう役立てるか、ビジネスにどううまく機能させるか。現場を知ってみて初めて、課題や問題点が見えてくる。子どもでも大人でも、ちょっとでも好きになれば、これおもしろいなと思うことが出てくれば、後は自分からやるものだ。勉強に対する意欲の引き出しは年齢とは関係ない。問題意識やいろいろな問題を次々に分析する力を持てるようになれば、社会に出たときに、世の中をより良くしようとするために、それぞれが社会に貢献できるようになるはずです。そのためにも常に世の中の動きにアンテナを張っておいて自分なりのものの見方を身につけていく。国際化やグローバル化の時代になっていても私たちが日本人である以上、やはり日本の国や文化についてそれ相応の知識を持っておく必要があります。それがあるかないかで人間の幅や世間からの評価も大きく違ってきます。

報道記者を経験した池上さんは、ＮＨＫの子ども向けニュース番組で解説する立場になってからは、とことんわかりやすい番組を作ることを心がけました。子ども達の「これ、わからない」にすぐに答えられるように準備しておく大切さを感じ、難しいから取り上げないのではなく、子どもも大人も見て楽しめるようにと考えたそうです。そして「ニュースをわかりやすく解説すること」が武器になったといいます。

時間があれば、本を読む。本を読む時間は意外に作れるものです。興味を持つことが勉強の入り口にあたります。本を読むときには常にアウトプットすることを意識して読むとおもしろいほど中身が自分の中に入っていく。インプットしたら今度は誰かに説明してみる。何度も繰り返すうちにだんだん説明が上手になります。そうすると課題やおもしろいところが明らかになってきます。

**教養を身につけると人生がおもしろくなるのはもちろんのこと、世の中の出来事の一つ一つについて、しっかりと自分の考えを持てるようになります。教養とは、人生におけるわくわくすること、おもしろいことや楽しいことを増やすためのツールです。教養を身につけるにはある程度の知識が必要です。教養と知識は不可分の関係にあるといっても間違いありません。勘違いしてはいけないのは、知識はあくまでも道具であって手段に過ぎないということです。決して知識を増やすことが目的ではありません。では、知識を教養レベルまで高めるためにはどうしたらいいか。それには自分の頭で考えることが大事で、本をじっくり読み。その内容について自分の頭で考えてみる。腑に落ちるまでとことん考える。それが大事。教養は若いうちから身につけた方がいい。グローバルに活躍している人は、文学、美術、音楽、建築、歴史などにも造詣が深い人が多く、日本人には圧倒的に勉強が足りない。専門分野を持ちながらも、広くある程度深い素養を身につけることが大事。**

**【 参照：「人生を面白くする本物の教養」出口治明 著 】**

英語教育を受けてきたのに話せない。というよりは英語で話せないのではなく、話すべき内容をもっていないということが問題である。日本は高等教育を母国語で受けられる珍しい国です。深い学びにつなげるためには、自分分析を行い、自分の良さや魅力を知り、それを伸ばしていくにはどうすればいいかを考えて、自分の弱点を見つめて、それを補い、克服するにはどうすればよいかを考える。考えるだけではなく、実際に行動に移して自分の幅を広げていく。そういうことも深い学びにつながるものである。教養を身につけると何気ない出会いが豊かな出会いに変わります。別々だった世界は実は何層にも重なり合っていることに気づきます。その深く味わいのある喜びを是非体験してください。　　【 参照：『何のために学ぶのか』池上 彰 著 】

何にどう時間を費やすのか･･･今、全ての人に問われています。心と体のバランスのとれた健康的な生活を送るためにしなければいけないことのヒントになれば幸いです。

※　家庭学習支援のお願いを配布させていただきました。ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

今後、臨時休業延長に伴い、夏期休業日の短縮などさまざまなことが検討されると予想されます。
変更等、何かありましたら早急にお伝えしていきますので、ミマモルメの未登録の方がおられましたら、対応をよろしくお願いいたします。

**【地域学校協働活動が始まります】**

地域学校協働活動とは、学校を拠点として地域と学校が協働して、子どもの学びや成長を支える活動です。本校でも地域学校協働本部が設置され、本校保護者のコーディネーターを中心に、地域の方々と繋がりをもちながら様々な活動に少しずつ取り組んでいく予定です。地域の皆様、ご協力をよろしくお願いいたします。